

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年 6月26日
【事業年度】	第61期(自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
【会社名】	小野観光開発株式会社
【英訳名】	Ono Kankokaihatsu Co.,Ltd
【代表者の役職氏名】	代表取締役 乾 康之
【本店の所在の場所】	兵庫県小野市来住町1225番地
【電話番号】	(0794) 63-1212
【事務連絡者氏名】	取締役支配人 山本 耕司
【最寄りの連絡場所】	兵庫県小野市来住町1225番地
【電話番号】	(0794) 63-1212
【事務連絡者氏名】	取締役支配人 山本 耕司
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	613,484	595,366	582,469	593,528	648,749
経常利益 (千円)	60,210	22,241	23,555	34,769	64,673
当期純利益 (千円)	48,265	37,604	18,428	18,211	59,729
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	707,000	707,000	707,000	707,000	100,000
発行済株式総数 (株)	1,043	1,043	1,043	1,043	1,043
純資産額 (千円)	1,099,083	1,105,806	1,120,556	1,212,109	1,189,552
総資産額 (千円)	1,664,712	1,633,687	1,567,121	1,668,893	1,567,642
1株当たり純資産額 (円)	1,053,770.93	1,060,217.51	1,074,359.03	1,162,137.82	1,140,510.28
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(内、1株当たり 中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	46,275.22	36,054.23	17,669.06	17,460.25	57,266.88
潜在株式調整後 1株当 たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.0	67.7	71.5	72.6	75.8
自己資本利益率 (%)	4.5	3.4	1.5	1.5	5.0
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	143,197	87,819	64,965	111,038	140,113
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	42,300	56,986	67,385	69,262	114,813
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	22,539	19,649	40,049	22,078	22,201
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	185,424	310,580	268,111	287,808	290,907
従業員数 (名)	43	45	42	37	39
〔外、平均臨時 雇用者数〕	〔26〕	〔27〕	〔27〕	〔25〕	〔24〕

- (注) 1 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 当社は関連会社を有しておりませんので、「持分法を適用した場合の投資利益」については記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
- 5 当社の株式は証券取引所に上場されておらず、また店頭登録もされておりませんので、「株価収益率」については記載しておりません。

(最近5年間の株主総利回りの推移)

当社は非上場・非登録につき該当ありません。

(最近5年間の事業年度別最高・最低株価)

当社は非上場・非登録につき該当ありません。

## 2 【沿革】

年月	概要
1959年11月	地元小野市の強い要望を受け、鴨池周辺にゴルフ場を建設することを決定する
1960年3月	資本金200万円（1株20万円にて10株発行）にて小野観光開発株式会社を設立
4月	30株（1株20万円）を発行し、累計40株（資本金800万円）となる
5月	コースの造成工事が始まる
8月	120株（1株20万円）を発行し、累計160株（資本金3,200万円）となる
10月	37株（1株20万円）を発行し、累計197株（資本金3,940万円）となる
12月	40株（1株20万円）を発行し、累計237株（資本金4,740万円）となる
1961年1月	クラブハウス地鎮祭を行う
4月	全ホール芝張り完了
11月	朝香鳩彦様をお迎えして正式オープン
12月	168株（1株20万円）を発行し、累計405株（資本金8,100万円）となる
1962年3月	81株（1株20万円）を発行し、累計486株（資本金9,720万円）となる
4月	高松宮様ご来場
12月	137株（1株20万円）を発行し、累計623株（資本金12,460万円）となる
1963年3月	111株（1株20万円）を発行し、累計734株（資本金14,680万円）となる
4月	株主の名義書換開始する
12月	53株（1株20万円）を発行し、累計787株（資本金15,740万円）となる
1964年1月	86株（1株20万円）を発行し、累計873株（資本金17,460万円）となる
5月	47株（1株20万円）を発行し、累計920株（資本金18,400万円）となる
7月	関西学生ゴルフ選手権競技開催される
1966年8月	日本学生ゴルフ選手権競技開催される
1969年9月	日本オープンゴルフ選手権競技開催される
1973年9月	関西アマチュアゴルフ選手権競技開催される
1975年7月	関西オープンゴルフ選手権競技開催される
1978年1月	乾理事長日本ゴルフ協会会長に就任
1980年6月	日本アマチュアゴルフ選手権競技開催される
1986年9月	開場25周年記念競技が盛大に開催される
1993年9月	乾豊彦初代理事長ご逝去、後任の理事長に乾民治氏が就任
1995年1月	阪神淡路大震災起こる
11月	ベントグリーンへの改造工事が完了
1998年7月	日本アマチュアゴルフ選手権競技開催される
2001年6月	日本女子アマチュアゴルフ選手権競技開催される
9月	開場40周年記念競技が盛大に開催される
2005年4月	第1回転換社債型新株予約権付社債45口を発行する（社債額面1口800万円）
11月	上記社債の転換請求により新株43株を発行し、資本金及び資本金準備金がそれぞれ172百万円増加し、新資本金が356百万円となる
2006年4月	第2回転換社債型新株予約権付社債49口を発行する（社債額面1口800万円）
11月	上記社債の転換請求により新株49株を発行し、資本金及び資本金準備金がそれぞれ196百万円増加し、新資本金が552百万円となる
2007年4月	第3回転換社債型新株予約権付社債31口を発行する（社債額面1口1,000万円）
11月	上記社債の転換請求により新株31株を発行し、資本金及び資本金準備金がそれぞれ155百万円増加し、新資本金が707百万円となる
同	日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技開催される
2008年6月	関西アマチュアゴルフ選手権競技開催される
2011年8月	関西オープンゴルフ選手権競技開催される
9月	開場50周年記念競技が盛大に開催される
2014年11月	日本シニアゴルフ選手権競技開催される
2015年7月	日本アマチュアゴルフ選手権競技クオリファイングラウンド開催される

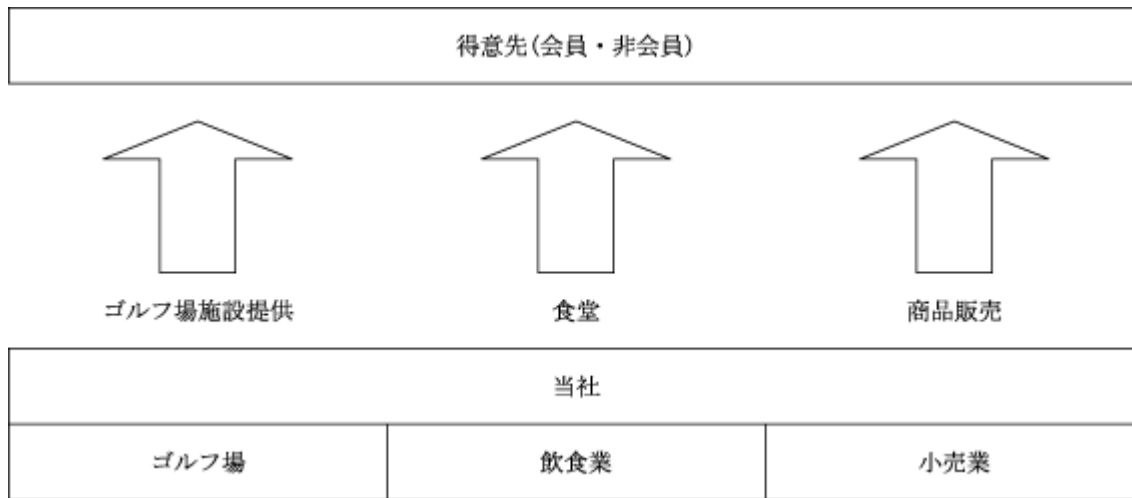
年月	概要
2018年5月	関西アマチュアゴルフ選手権競技開催される

2018年11月 | 日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技開催される

### 3 【事業の内容】

当社は、メンバー制のゴルフ場を経営、附帯する食堂・売店のサービスとともにゴルフプレーヤーにゴルフ場施設を提供することを内容としています。

事業所は小野ゴルフ倶楽部のみにて関係会社はありません。



#### 4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
39 [ 24 ]	46.7	14.4	3,783

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。また、パート・アルバイトの就業時間を正社員の就業時間に換算して計算しております。  
3 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

##### (2) 労働組合の状況

現在、当社グループにおいて労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満であり、特記すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

ゴルフ場を取り巻く経営環境は、今後も厳しい状況が続くものと予想されます。また、新型コロナウイルス感染拡大による世界経済への影響は計り知れず、混沌とした状況が続くものと思われます。

このような未曾有の事態ではありますが、「新しい生活様式」に代表されるように、今後日本におけるゴルフ場の形態に、どのような影響を及ぼすのかということを見定めることが肝要かと思えます。よく考え、より良き方策を模索して参ります。

会員株主のゴルフライフの充実は、当社経営の目標であります。その目標を実現するためには、当倶楽部の健全性が不可欠であり、当倶楽部の健全性を実現するためには、ゴルフコースや財務等の物的資源とともに、会員と従業員という人的資源の充実が必要であります。

2021年には当倶楽部の開場60周年を迎えます。もちろん、守るべきものを守りながら、時代に即した経営を心掛ける所存ですので、今後とも、当社及び当倶楽部の事業活動に対するご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、当社は自己資本利益率を重視しております。

### 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 売上高の季節的変動の影響について

当社の売上高は、毎年4月～6月と10月～12月の6ヶ月における売上高が、年間売上高の60%以上の大きな比率を占めています。

屋外スポーツの属性として毎年1月～2月は厳冬で来場者が激減し、さらには、7月～8月は特に猛暑による来場者の減少が続き、季節的変動の影響が大きい企業であります。

#### (2) 気象状況の変化による影響

台風、地震、水害など気象状況の激変が要因で、コース施設の倒木、地山崩壊による予期しない損害を受け多額の修復費が発生し、また、突発的な悪天候によって、コースのクローズを含めた来場者の大幅な減少が生じる可能性があります。

#### (3) 少子高齢化による影響

少子高齢化により、来場回数の漸減と、少子化による青壮年層のゴルフ人口の減少により長期的な展望で業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下、「経営成績等」という。)の状況の概要並びに経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

#### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たりまして、決算日における資産・負債及び事業年度の収入・費用の数値に影響を与える見積りは、主に資産の評価や引当金の計上であり、これらは継続して評価を行っているものです。

#### (2) 経営成績等の状況の概要

経営成績の状況



当事業年度における我が国の経済は、消費税率の引上げが実施されたものの、雇用・所得環境の改善が続くなか、内需は緩やかに回復いたしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響が本格的に現れるのは次年度以降となり、戦後最大と言うべき危機に直面している状況であります。

このような状況のもと、ゴルフ場業界におきましては、引き続き少子高齢化や娯楽の多様化等に伴うゴルフ人口の減少が予想されること、また自然災害の発生等により多額の費用を要するなど、依然として厳しい状況が続いております。

当社におきましては、来場者数は前期比2,065名増加の26,719名となりました。

売上高におきましては、グリーンフィー・プレー収入及び食堂収入等が550百万円（前期比64百万円増）となり、その他名義書換料及び名義変更料が92百万円、家族特別正会員登録料3百万円及び終身週日会員登録料3百万円を併せて98百万円（同9百万円減）で売上高合計は648百万円（同55百万円増）となりました。

これに対し、売上原価並びに販売費及び一般管理費におきましては、来場者数の増加に伴う変動費の増加、また、引き続きコース内の改良工事を実施したことや、人手不足による費用の増加等により592百万円（前期比23百万円増）となり、差引営業利益は56百万円（同31百万円増）となりました。これに営業外損益を加減し、経常利益は64百万円（同29百万円増）となりました。税引前当期純利益は64百万円（同48百万円増）、当期純利益は59百万円（同41百万円増）となりました。

なお、当社が重視しております、自己資本利益率につきましては、5.0%となっております。

## 生産、受注及び販売の状況

### (1) 生産実績

当社はゴルフ場経営につき、該当事項はありません。

### (2) 受注状況

当社はゴルフ場経営につき、該当事項はありません。

### (3) 販売実績

当事業年度における販売実績を売上区分別に示すと、次のとおりであります。

売上区分別	第60期 自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日			第61期 自 2019年4月 1日 至 2020年3月31日		
	人員 (人)	年額 (千円)	構成比率 (%)	人員 (人)	年額 (千円)	構成比率 (%)
1. グリーンフィー						
メンバーズフィー	13,256	57,717	9.7	12,417	54,103	8.3
ビジターズフィー	11,398	115,560	19.5	14,302	133,397	20.6
計	24,654	173,277	29.2	26,719	187,501	28.9
2. 食堂売店収入		106,668	18.0		118,838	18.3
3. プレー収入		116,653	19.7		130,255	20.1
4. 年会費収入		73,314	12.4		96,892	14.9
5. 名義書換手数料		82,000	13.8		92,000	14.2
6. 登録料						
会員登録料		25,500	4.3		6,000	0.9
7. その他の収入						
ロッカー保管料		5,735	1.0		5,832	0.9
その他 1		10,381	1.8		11,430	1.8
計		16,116	2.7		17,262	2.7
合 計		593,528	100.0		648,749	100.0

(注)

- 1 その他の収入のその他につきましては、営業雑収を総括して計上しております。
- 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
- 3 総販売実績の10%以上を占める販売顧客に該当するものではありません。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社はゴルフ場を運営する会社であり多額の設備資金が必要となります。そのため、通常の設備資金についてはできる限り自己資金で賄うこととし、自己資金で賄いきれない設備資金については、借入金等により資金調達を行うことを基本方針としております。財政状態及びキャッシュ・フローの状況を踏まえて、必要な資金需要に対応できる財務健全性は確保できているものと判断しております。

財政状態の状況

当事業年度末における財政状態は、前事業年度末と比べ資産合計は101百万円の減少、負債合計は78百万円の減少、純資産合計は22百万円の減少となりました。

資産の主な変動要因は、保有証券の時価の下落により投資有価証券が118百万円減少したことによるものです。

負債の主な変動要因は、長期未払金の減少33百万円、未払金が40百万円減少及び長期預り金が15百万円減少したことによるものです。

純資産の主な変動要因は、保有証券の時価の下落によりその他有価証券評価差額金が82百万円減少したものの当期純利益の計上により繰越利益剰余金が59百万円増加したことによるものです

上記の結果、自己資本比率は75.8%となり前年同期比で3.2%上昇しております。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物は前事業年度末と比べ3百万円増加し290百万円となりました。

当事業年度において営業活動の結果得られた資金は140百万円(前年同期比29百万円増)となりました。これは主に、税引前当期純利益64百万円、減価償却費50百万円及び未払消費税等の増加が7百万円などがあったことによりです。

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は114百万円(前年同期比45百万円増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出114百万円などがあったことによりです。

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は22百万円(前年同期比0百万円増)となりました。これは主にリース債務の返済による支出7百万円及び会員長期預り金返済による支出15百万円などがあったことによりです。

(4) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この財務諸表を作成するにあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは以下のとおりであります。

(繰延税金資産の回収可能性)

繰延税金資産の回収可能性は、将来の税金負担額を軽減する効果を有するかどうかで判断しております。当該判断は、収益力に基づく一時差異等加減算前課税所得の十分性、タックス・プランニングに基づく一時差異等加減算前課税所得の十分性及び将来加算一時差異の十分性のいずれかを満たしているかどうかにより判断しております。

当該見積り及び当該仮定について、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合、翌事業年度以降の財務諸表において認識する繰延税金資産及び法人税等調整額の金額に重要な影響を与える可能性があります。

- 4 【経営上の重要な契約等】  
特記すべき事項はありません。
  
- 5 【研究開発活動】  
特記すべき事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当事業年度においては、実施した投資の総額は114百万円であります。なお、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

2020年 3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (名)
		建物及び 構築物	機械及び 装置	リース資産	球場	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (小野市)	ゴルフ場	322	17	-	504	55 (790,302)	9	908	39 (24)

- (注) 1 金額には、消費税等は含んでおりません。  
 2 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具、器具及び備品の合計であります。  
 3 従業員数は就業人員であり臨時雇用者数は年間の平均人員を( )外数で記載しております。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500
計	1,500

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,043	1,043	非上場・非登録	単元株制度は採用して おりません。
計	1,043	1,043		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年8月1日 (注)	-	1,043	607,000	100,000	-	476,288

(注) 財務政策、資本政策上の柔軟性及び機動性を目的として資本金の減少を行っています。

## (5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	1	1	24	-	-	974	1,000	-
所有株式数 (株)	-	2	3	64	-	-	974	1,043	-
所有株式数 の割合(%)	-	0.19	0.29	6.14	-	-	93.38	100.00	-

## (6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
白鶴酒造株式会社	神戸市東灘区住吉南町四丁目5番5号	3	0.29
兵庫日野整備株式会社	神戸市中央区野崎通六丁目2-21	3	0.29
株式会社ノザワ	神戸市中央区浪花町15番地	3	0.29
株式会社オゾネ	神戸市中央区中町通三丁目2番15号	3	0.29
龍田紡績株式会社	姫路市東延末264番地	3	0.29
富士電機株式会社	大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪タワーB	3	0.29
八馬汽船株式会社	神戸市中央区京町74番地	3	0.29
川崎重工業株式会社	神戸市中央区東川崎町一丁目1-3	3	0.29
株式会社ジャパンエンジンコーポレーション	明石市二見町南二見一番地	3	0.29
興進産業株式会社	神戸市中央区相生町四丁目3番1号	3	0.29
西芝電機株式会社	姫路市網干区浜田1000番地	3	0.29
野村證券株式会社	神戸市中央区三宮町一丁目5-32	3	0.29
大阪日野自動車株式会社	大阪市西淀川区千舟一丁目4番45号	3	0.29
日本製鉄株式会社	姫路市広畑区富士町1番地	3	0.29
神港ビルディング株式会社	神戸市中央区海岸通8番	3	0.29
太陽鋳工株式会社	神戸市中央区磯辺通一丁目1番39号	3	0.29
武田薬品工業株式会社	大阪市中央区道修町四丁目1-1	3	0.29
計	-	51	4.89

(注) 上記以外の株主のうち、法人株主についてはそれぞれ所有株式数2株、個人株主についてはそれぞれ所有株式数1株の会員株主であります。



## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,043	1,043	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	1,043	-	-
総株主の議決権	-	1,043	-

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
該当事項はありません。
- (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】  
該当事項はありません。

### 3 【配当政策】

当社は、創業以来、一貫してゴルフ場施設の充実により良質なサービスの提供を通じて株主への利益還元を重要な課題のひとつと考え、経営にあたってきました。

このような方針のもとに、ゴルフ場施設の一層の充実並びに内部留保による財務体質の強化を図りつつ、業績及び財政状態の推移をみながら、剰余金の配当を検討していく方針であります。

### 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

#### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

##### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営環境の変化にともなう「経営判断の迅速化」や株主に対する「経営の透明性」がますます求められる情勢において、「企業経営は誰のために行うのか」「経営陣を誰がどのように監視するのか」といったいわゆる「企業統治」に関することは、当社の経営を継続していくうえでの根幹に関わる重要課題と認識しております。

##### 会社の機関の内容

当社の役員は取締役4名、監査役4名であり、取締役会は定期的開催し、重要課題について論議を重ねております。

##### 内部統制システムの整備の状況

当社では、取締役4名および監査役4名が出席して定期的に取り締役会を開催し、業務の執行状況や経営上のリスク把握に努めております。

##### リスク管理体制の整備の状況

当社は、業務に関わるすべてのリスクについて適切に管理することにより、長期的な業容の拡大、安定的な収益の確保と健全な経営基盤の確立を経営上の重要課題としております。これに対応するため、各業務部門において規則・基準を定め、リスクの測定、管理手法の研究等を行っております。リスクの発見が予見される場合には顧問契約を締結している法律事務所をはじめとする専門機関と適宜相談を行い、予防に努めるとともに、問題が発生した場合には迅速な対応を図ることにしております。

##### 役員報酬の内容

取締役、監査役全員無報酬であり、責任限定契約はしておりません。

##### 取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨定款に定めております。

##### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

##### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## (2)【役員の状況】

男性8名 女性 - 名(役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役	乾 康之	1968年12月 5日生	2008年12月 2014年 6月 2016年 6月	イヌイ建物㈱(現乾汽船㈱) 代表取締役社長に就任(現) 当社監査役に就任 当社代表取締役に就任(現)	注2	1
取締役	阿部 文彦	1970年 6月26日生	2012年 6月 2018年 6月	当社監査役に就任 当社取締役に就任(現)	注2	1
取締役	山本 耕司	1979年 2月12日生	2001年 4月 2014年 6月	当社入社 当社取締役に就任(現)	注2	0
取締役	前川 哲彦	1970年 5月13日生	2012年 6月 2013年 9月	当社取締役に就任(現) ㈱Wave Energy代表取締役会 長に就任(現)	注2	1
常勤監査役	土城 敏彦	1954年 6月 1日生	2012年 6月	当社常勤監査役に就任(現)	注3	1
監査役	鈴木 一史	1976年 2月11日生	2015年 6月 2018年 6月	当社監査役に就任(現) 太陽鉱工㈱代表取締役社長に 就任(現)	注3	1
監査役	太田 稔宏	1971年 8月24日生	2012年 9月 2018年 6月	永光産業㈱代表取締役社長に 就任(現) 当社監査役に就任(現)	注4	1
監査役	高島 一郎	1976年 1月28日生	2015年 9月 2019年 6月	神田工業(株)取締役社長に就 任(現) 当社監査役に就任(現)	注3	1
						7

(注) 1. 取締役 前川哲彦氏は社外取締役であります。

監査役4名全員は社外監査役であります。

- 2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## (社外取締役及び社外監査役との関係)

社外取締役及び社外監査役と当社との間には、役員が株主であることのほかは、人的関係、資本的关系、取引関係その他の利害関係はありません。

### (3)【監査の状況】

#### 監査役監査の状況

監査役会は、常勤監査役1名と監査役3名で構成され、全員社外監査役であります。各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、業務分担に従い、定例及び臨時の取締役会への出席や業務及び財務の状況等の調査等を通じて、取締役の職務執行について、適法性及び妥当性の観点から監査し、社会的信頼に応える良質な企業統治体制の確立を目的としております。

当事業年度において当社は監査役会を1回開催しており、各監査役は全員出席しました。

監査役会においては、監査報告の作成、監査方針や監査計画の策定、業務及び財産の状況の調査等、監査役の職務執行に関する事項を検討するとともに、内部統制システムの検証に関する監査などに取り組みました。

また、常勤監査役は、取締役会に出席し経営意思決定の監査をするとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行うなどし、監査活動に取り組みました。

#### 内部監査の状況

当社における内部監査は、役員及び従業員の人数が少ないため担当部門はありませんが、取締役支配人が業務全般にわたって管理監督を行っており、具体的には毎月経理担当より、月次の報告を受け適正に業務の遂行がなされているかをチェックしています。また、監査役会に対しては、中間決算および年度末決算等について随時資料を提出し適正な指導を受け、コーポレート・ガバナンス体制を確保しております。

#### 会計監査の状況

(監査法人の名称)

神明監査法人

(継続監査期間)

15年

(業務を執行した公認会計士)

角橋 実

(監査業務に係る補助者の構成)

当社の監査業務に係る補助者は、公認会計士2名であります。

(監査法人の選定方針と理由)

当社は、会計監査人の選定及び評価に際しては、当社の広範な業務内容に対応して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模を持つこと、審査体制が整備されていること、監査日数、監査期間及び具体的な監査実施要領並びに監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査実績などにより総合的に判断いたします。

(監査役及び監査役会の会計監査人の評価)

当社の監査役及び監査役会は、監査法人の監査方法及び結果は相当かつ妥当なものと判断しております。

また、監査役及び監査役会は会計監査人の独立性や職務の適正が確保されているとして、再任することを承認決議しております。

監査報酬の内容等

イ 監査公認会計士等に対する報酬の内容

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
3,000	-	3,000	-

ロ 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（イを除く）  
該当事項はありません。

ハ その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容  
該当事項はありません。

二 監査報酬の決定方針

当社は、監査公認会計士等に対する監査報酬の額の決定に関する方針を定めてはおりませんが、監査法人からの基本報酬額等の提示及びその説明を受けて、監査法人と十分に協議した上で監査報酬を決定しております。

ホ 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査法人からの基本報酬額等の提示及びその説明を受けて、監査の内容及び報酬が、当社の状況に十分に合致したものと判断して同意しております。

(4) 【役員の報酬等】

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、神明監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

## 1 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	287,808	290,907
売掛金	27,920	28,470
商品	7,193	6,481
貯蔵品	5,533	4,707
その他	1,756	923
流動資産合計	330,212	331,491
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,294,694	1,291,945
減価償却累計額	1,075,820	1,075,820
建物(純額)	218,874	216,124
構築物	362,073	374,788
減価償却累計額	255,864	268,767
構築物(純額)	106,209	106,021
機械及び装置	138,650	137,165
減価償却累計額	119,687	119,687
機械及び装置(純額)	18,962	17,477
車両運搬具	12,767	12,743
減価償却累計額	12,165	12,165
車両運搬具(純額)	602	578
工具、器具及び備品	111,298	112,690
減価償却累計額	104,134	104,134
工具、器具及び備品(純額)	7,163	8,555
球場	504,408	504,408
土地	55,640	55,640
リース資産	83,426	76,758
減価償却累計額	76,758	76,758
リース資産(純額)	6,667	-
有形固定資産合計	918,529	908,808
無形固定資産		
電話加入権	670	670
ソフトウェア	3,333	2,533
無形固定資産合計	4,003	3,203
投資その他の資産		
投資有価証券	413,130	294,840
差入保証金	2,712	-
預託金	67	67
繰延税金資産	-	29,013
その他	239	218
投資その他の資産合計	416,148	324,139
固定資産合計	1,338,681	1,236,151
資産合計	1,668,893	1,567,642



(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,895	2,982
リース債務	7,201	-
未払金	75,019	34,397
未払費用	39,177	26,714
未払法人税等	5,133	502
未払消費税等	3,580	11,466
預り金	2,622	27,009
未経過会費	91,977	94,267
未経過ロッカー保管料	5,650	5,827
賞与引当金	7,844	8,642
流動負債合計	241,101	211,811
固定負債		
長期未払金	42,335	8,537
長期預り金	106,800	91,800
退職給付引当金	63,476	65,941
繰延税金負債	3,070	-
固定負債合計	215,682	166,279
負債合計	456,784	378,090
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	707,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	476,288	476,288
その他資本剰余金	-	607,000
資本剰余金合計	476,288	1,083,288
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	56,267	3,461
利益剰余金合計	56,267	3,461
株主資本合計	1,127,020	1,186,750
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	85,088	2,802
評価・換算差額等合計	85,088	2,802
純資産合計	1,212,109	1,189,552
負債純資産合計	1,668,893	1,567,642

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
<b>売上高</b>		
グリーンフィ	173,277	187,501
食堂売店収入	106,668	118,838
プレー収入	116,653	130,255
年会費収入	73,314	96,892
名義書換手数料	82,000	92,000
登録料	25,500	6,000
その他の収入	16,116	17,262
<b>売上高合計</b>	<b>593,528</b>	<b>648,749</b>
<b>売上原価</b>		
コース費	1 125,761	1 132,277
食堂売店売上原価	39,514	43,819
プレー支出	2 120,412	2 138,573
<b>売上原価合計</b>	<b>285,689</b>	<b>314,670</b>
<b>売上総利益</b>	<b>307,838</b>	<b>334,079</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>		
一般管理費	3 283,069	3 277,733
<b>販売費及び一般管理費合計</b>	<b>283,069</b>	<b>277,733</b>
<b>営業利益</b>	<b>24,769</b>	<b>56,346</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	18	18
受取配当金	5,800	7,000
雑収入	6,194	2,640
<b>営業外収益合計</b>	<b>12,012</b>	<b>9,658</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1,898	1,230
雑損失	113	101
<b>営業外費用合計</b>	<b>2,012</b>	<b>1,331</b>
<b>経常利益</b>	<b>34,769</b>	<b>64,673</b>
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	-	4 45
<b>特別利益合計</b>	<b>-</b>	<b>45</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	5 19,039	5 65
<b>特別損失合計</b>	<b>19,039</b>	<b>65</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>15,729</b>	<b>64,653</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>3,814</b>	<b>1,004</b>
<b>法人税等調整額</b>	<b>6,295</b>	<b>3,919</b>
<b>法人税等合計</b>	<b>2,481</b>	<b>4,923</b>
<b>当期純利益</b>	<b>18,211</b>	<b>59,729</b>

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	707,000	476,288	476,288	74,478	74,478	1,108,809	11,746	11,746	1,120,556
当期変動額									
当期純利益				18,211	18,211	18,211			18,211
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)							73,342	73,342	73,342
当期変動額合計	-	-	-	18,211	18,211	18,211	73,342	73,342	91,553
当期末残高	707,000	476,288	476,288	56,267	56,267	1,127,020	85,088	85,088	1,212,109

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益剰 余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	707,000	476,288	-	476,288	56,267	56,267	1,127,020	85,088	85,088	1,212,109
当期変動額										
減資	607,000		607,000	607,000			-			-
当期純利益					59,729	59,729	59,729			59,729
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)								82,286	82,286	82,286
当期変動額合計	607,000	-	607,000	607,000	59,729	59,729	59,729	82,286	82,286	22,557
当期末残高	100,000	476,288	607,000	1,083,288	3,461	3,461	1,186,750	2,802	2,802	1,189,552

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	15,729	64,653
減価償却費	55,484	50,894
賞与引当金の増減額( は減少)	331	797
退職給付引当金の増減額( は減少)	3,635	2,464
受取利息及び受取配当金	5,818	7,018
支払利息	1,898	1,230
固定資産売却損益( は益)	-	45
固定資産除却損	19,039	65
売上債権の増減額( は増加)	4,208	550
たな卸資産の増減額( は増加)	62	1,537
仕入債務の増減額( は減少)	242	87
未払消費税等の増減額( は減少)	1,349	7,886
その他	26,665	13,817
小計	110,440	135,821
利息及び配当金の受取額	5,818	7,018
利息の支払額	1,898	1,230
法人税等の支払額	3,322	1,495
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>111,038</b>	<b>140,113</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	61,015	114,858
有形固定資産の売却による収入	-	45
有形固定資産の除却による支出	4,247	-
無形固定資産の取得による支出	4,000	-
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>69,262</b>	<b>114,813</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	17,078	7,201
長期預り金の返還による支出	5,000	15,000
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>22,078</b>	<b>22,201</b>
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	19,697	3,099
現金及び現金同等物の期首残高	268,111	287,808
現金及び現金同等物の期末残高	1 287,808	1 290,907

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産の評価基準は最終仕入原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

(1) 商品

最終仕入原価法による原価法

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。但し、1998年4月以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 10～50年

構築物 10～60年

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌事業年度から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務を簡便法（期末要支給額100%）により計上しております。

5 キャッシュフロー計算書における資金の範囲

手許資金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

6 その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

## 1 コース費の内訳は次の通りです。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
業務委託費	110,000 千円	110,000 千円
消耗品費	984 千円	1,395 千円
修繕費	6,421 千円	7,230 千円
補修費	5,174 千円	10,262 千円
雑費	3,181 千円	3,389 千円
合 計	125,761 千円	132,277 千円

## 2 プレー支出の内訳は次の通りです。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給料及び手当	89,446 千円	83,365 千円
福利厚生費	18,933 千円	18,017 千円
業務委託費	1,048 千円	25,656 千円
消耗品費	6,996 千円	3,652 千円
修繕費	1,366 千円	126 千円
被服費	903 千円	1,596 千円
雑費	1,719 千円	6,158 千円
合 計	120,412 千円	138,573 千円

## 3 一般管理費の内訳は次の通りです。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給料及び手当	97,505千円	101,728千円
賞与引当金繰入額	7,844千円	8,642千円
退職給付費用	5,193千円	6,691千円
福利厚生費	18,896千円	19,013千円
水道光熱費	18,813千円	17,813千円
消耗品費	8,597千円	6,503千円
事務用品費	4,788千円	5,837千円
租税公課	19,135千円	11,466千円
減価償却費	55,484千円	50,894千円
雑費	22,478千円	23,459千円
その他	24,333千円	25,683千円
合 計	283,069千円	277,733千円

## 4 固定資産売却益の内訳は以下の通りです。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
機械及び装置	- 千円	45 千円
合 計	- 千円	45 千円



5 固定資産除却損の内訳は次の通りです。

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
建物	14,414 千円	65 千円
機械及び装置	378 千円	0 千円
工具、器具及び備品	0 千円	0 千円
撤去費用	4,247 千円	- 千円
合 計	19,039 千円	65 千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	1,043	-	-	1,043
合計	1,043	-	-	1,043
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	1,043	-	-	1,043
合計	1,043	-	-	1,043
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金勘定 預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	287,808 千円 - 千円	290,907 千円 - 千円
現金及び現金同等物	287,808 千円	290,907 千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産 主として、乗用ゴルフカート(機械及び装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組み方針

当社は、資金運用については短期的な預金、上場株式及び国債等に限定して運用しております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

デリバティブ取引は行っておりません。また、投資有価証券は上場株式であり、時価の把握を行っておりません。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

営業債権である売掛金及び営業債務である買掛金に係る顧客の信用リスクは、販売業務管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

(1)前事業年度(2019年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	287,808	287,808	-
(2)売掛金	27,920	27,920	-
(3)投資有価証券	413,130	413,130	-
(4)買掛金	2,895	2,895	-
(5)リース債務	7,201	7,201	-
(6)長期未払金	75,452	75,651	199

(2)当事業年度(2020年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	290,907	290,907	-
(2)売掛金	28,470	28,470	-
(3)投資有価証券	294,840	294,840	-
(4)買掛金	2,982	2,982	-
(5)リース債務	-	-	-
(6)長期未払金	42,335	42,350	14

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1)現金及び預金、並びに(2)売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

(4)買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5)リース債務

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6)長期未払金(1年内支払予定の長期未払金を含む)

時価については、新規に同様の取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## (注)2.時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

## (1)前事業年度(2019年3月31日)

区分	貸借対照表計上額(千円)
長期預り金	106,800

長期預り金は入会保証金の預りであり、市場価格がなく、かつ、返済時期が確定していないものもあり、将来キャッシュフローを見積ることができません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価の表示はしていません。

なお、1年以内返還予定の入会保証金はありません。

## (2)当事業年度(2020年3月31日)

区分	貸借対照表計上額(千円)
長期預り金	91,800

長期預り金は入会保証金の預りであり、市場価格がなく、かつ、返済時期が確定していないものもあり、将来キャッシュフローを見積ることができません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価の表示はしていません。

なお、1年以内返還予定の入会保証金はありません。

## (注)3.金銭債権の決算日後の償還予定額

## 前事業年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	287,808	-	-	-
売掛金	27,920	-	-	-
合計	315,729	-	-	-

## 当事業年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	290,907	-	-	-
売掛金	28,470	-	-	-
計	319,378	-	-	-

## (注)4.リース債務及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

## 前事業年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	7,201	-	-	-	-	-
長期未払金	33,116	33,797	8,537	-	-	-
合計	40,317	33,797	8,537	-	-	-

## 当事業年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	-	-	-	-	-	-
長期未払金	33,797	8,537	-	-	-	-
合計	33,797	8,537	-	-	-	-

(有価証券関係)

## 1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

該当事項はありません。

## 2. その他有価証券で時価のあるもの

## (1) 前事業年度(2019年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	240,280	89,120	151,160
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	240,280	89,120	151,160
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式等	172,850	201,438	28,588
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	172,850	201,438	28,588
合計		413,130	290,558	122,571

## (2) 当事業年度(2020年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	142,390	89,120	53,270
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	142,390	89,120	53,270
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式等	152,450	201,438	48,988
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		294,840	290,558	4,281

3. 事業年度中に売却したその他有価証券

- (1) 前事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度(自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)  
該当事項はありません。

4. 事業年度中に減損処理を行った有価証券

- (1) 前事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度(自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)  
該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)及び当事業年度(自2019年4月1日 至2020年3月31日)

当社はデリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職一時金制度を設けております。

2. 簡便法を適用した退職給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	59,841千円
退職給付費用	5,193千円
退職給付の支払額	1,557千円
退職給付引当金の期末残高	63,476千円

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

非積立型制度の退職給付債務	63,476千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	63,476千円

退職給付引当金	63,476千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	63,476千円

3. 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	5,193千円
----------------	---------

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職一時金制度を設けております。

2. 簡便法を適用した退職給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	63,476千円
退職給付費用	6,691千円
退職給付の支払額	4,226千円
退職給付引当金の期末残高	65,941千円

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

非積立型制度の退職給付債務	65,941千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	65,941千円

退職給付引当金	65,941千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	65,941千円

3. 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	6,691千円
----------------	---------



(ストック・オプション等関係)

前事業年度(2019年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(2020年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産	(千円)	(千円)
税務上の繰越欠損金(注)1	196,643	134,518
賞与引当金	2,755	3,455
未払事業税	1,286	-
退職給付引当金	19,411	22,782
繰延税金資産小計	220,116	160,756
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)1	185,704	128,907
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	-	-
評価性引当額小計	185,704	128,907
繰延税金資産合計	34,412	31,849
繰延税金負債		
未収事業税	-	1,356
その他有価証券評価差額金	37,482	1,479
繰延税金負債合計	37,482	2,835
繰延税金負債の純額	3,070	-
繰延税金資産の純額	-	29,013

(注)1 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)		77,582	48,301	70,759			196,643
評価性引当額		70,142	44,802	70,759			185,704
繰延税金資産		7,440	3,499				10,939

(a)税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた金額である。

当事業年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	54,572	79,946					134,518
評価性引当額	54,572	74,334					128,907
繰延税金資産		5,611					5,611

(a)税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた金額である。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6 %	34.6 %
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.5 %	- %
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	2.3 %	0.7 %
住民税均等割	6.4 %	1.6 %
繰越欠損金の控除	50.6 %	21.4 %
実効税率の変更	- %	6.9 %
その他	0.4 %	0.4 %
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	15.8 %	7.6 %

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(持分法損益等)

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

関連会社がないため、該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

関連会社がないため、該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (2019年 3月31日)	当事業年度 (2020年 3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	1,162,137円82銭	1,140,510円28銭

項目	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益	17,460円25銭	57,266円88銭
(算定上の基礎)		
当期純利益(千円)	18,211	59,729
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	18,211	59,729
期中平均株式数(株)	1,043	1,043

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
< その他有価証券 >		
中部電力株式会社	100,000	152,450
関西電力株式会社	40,000	48,140
東京電力ホールディングス株式会社	250,000	94,250
計	390,000	294,840

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,294,694	13,687	13,824	1,294,557	1,078,432	16,371	216,124
構築物	362,073	12,905	-	374,978	268,957	13,092	106,021
機械及び装置	138,650	8,137	1,500	145,287	127,809	9,621	17,477
車両運搬具	12,767	1,157	199	13,726	13,147	1,181	578
工具、器具及び備品	111,298	4,552	2,842	111,214	102,659	3,160	8,555
球場	504,408	-	-	504,408	-	-	504,408
土地	55,640	-	-	55,640	-	-	55,640
リース資産	83,426	-	20,024	63,402	63,402	6,667	-
有形固定資産計	2,562,956	40,439	38,390	2,563,215	1,654,407	50,094	908,808
無形固定資産							
水道施設利用権	-	-	-	-	-	-	-
電話加入権	-	-	-	670	-	-	670
ソフトウェア	-	-	-	4,000	1,466	800	2,533
無形固定資産計	-	-	-	4,670	1,466	800	3,203

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

増加	建物	給湯管取替工事	6,383
	構築物	獣害防止柵	9,867
	機械及び装置	乗用三連グリーンモア	5,800

2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

減少	建物	厨房給排水衛生設備	13,104
	リース資産	軽量5連フェアウェイモア	13,582

3. 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため、「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。



【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
未払金	33,116	33,797	1.3	-
1年以内に返済予定のリース債務	7,201	-	-	-
長期未払金(1年以内に返済予定のものを除く。)	42,335	8,537	1.3	2021年4月1日～ 2021年11月30日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
其他有利子負債	-	-	-	-
合計	82,653	42,335	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期未払金の連結決済日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期未払金 (未払金含む)	8,537	-	-	-

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	7,844	8,642	7,844	-	8,642

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## 資産の部

## a 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	1,422
預金	
当座預金	93
普通預金	129,331
定期預金	160,059
計	289,485
合計	290,907

## b 売掛金

## イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
会員掛勘定	3,379
その他	25,091
計	28,470

## ロ 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
27,920	478,556	478,006	28,470	94.4	21.6

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

## c 商品

区分	金額(千円)
食品	2,408
ゴルフ用品	4,073
計	6,481

## d 貯蔵品

区分	金額(千円)
ハウス消耗品関係	3,151
クラブ賞品関係他	1,555
計	4,707

## 負債の部

## a 買掛金

相手先	金額(千円)
増富	506
鯛勝食品工業	491
クボタストアー	480
とみさん	326
その他	1,177
計	2,982

## b 未経過会費

相手先	金額(千円)
会員	94,267
計	94,267

## c 長期未払金(1年内支払予定の長期未払金を含む)

相手先	金額(千円)
三井住友ファイナンス&リース他	42,335
計	42,335

## d 長期預り金

相手先	金額(千円)	摘要
週日会員	86,800	36名
平日会員	5,000	1名
計	91,800	37名

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月 1日から 3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	普通株式 1株券
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	
株式の名義書換え	
取扱場所	兵庫県小野市来住町1225番地 小野観光開発株式会社
株主名簿管理人	該当事項なし
取次所	該当事項なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	定めなし
株主名簿管理人	定めなし
取次所	定めなし
買取手数料	定めなし
公告掲載方法	神戸新聞
株主に対する特典	該当事項なし

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第60期(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)2019年6月26日近畿財務局長に提出

#### (2) 半期報告書

事業年度 第61期中間(自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)2019年12月26日近畿財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年6月25日

小野観光開発株式会社  
取締役会 御中

神明監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 角橋 実

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている小野観光開発株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第61期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、小野観光開発株式会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。



- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。